

記 事

◎第3回理事会(昭.26.8.3) 出席者:大西会長,稲浦,立花両副会長,今岡,樺島,坂本,西松,仁杉,本間,丸安,米元の各理事;協議事項:(1)日本工学会大会に関し丸安,米元両理事が同準備委員会に出席した結果,関係各学協会の態度から見て次回日本工学会理事会の方針を俟つて考慮すること,(2)日発記念基金は銀行株,投資信託,割引興業債券とすること,(3)毎日学術奨励金候補研究として安芸皎一氏外14名の「洪水対策の研究」を推薦すること,(4)科学技術会館建設準備委員長久保田敬一氏からの申入に対し賛意を表すること,(5)坂 静雄氏から提議された“International Association for Bridge and Structural Engineering”の連絡機関として学術会議内に研究連絡委員会を設置するについて推薦学会たること”を承諾する,(6)Dr. Savage(ダムの大家)の来訪に際し,講演会と話を聞く会開催につき斡旋することとし,その計画は会長と高畑理事で案を練ること(7)関西支部長に泉谷平次郎氏を委嘱すること,(8)新調査研究題目として,土木工学ポケットブックの編纂,橋梁設計示方書の改訂等につき調査部で研究すること,(9)9月行事としてはSavage氏の講演会をこれに当てる,(10)工業技術庁から依頼のコンクリート試験方法の原案作製方承諾する。

◎夏季講習会(昭.26.8.23~24 東大法学部第31号教室において) 聴講者495名。久しく旱天続きで皆あえていたので早朝来降り注いだ雨はほんとうの慈雨ではあつたが吾々にはありがたくないのである。而し雨中にもめげず聴講者は続々とつめかけ定刻9時には未

だ受け混乱中なので多少時間を延ばし,9時20分丸安理事開会を宣し次のプログラムで講習を進めた。

- 第1日:会長挨拶 大西 英一
 簡易な吊橋の設計について 平井 敦
 特別講演:橋梁技術の趨勢について 田中 豊
 橋梁におけるアルミニウム合金の活用 福田 武雄
 道路橋の保守並びに補強について 村上 永一
 AE コンクリートについて 国分 正胤
- 第2日:橋脚による洗州とその対策について 石原 藤次郎
 特別講演:コンクリートの進歩の現状 吉田 徳次郎
 鉄道橋の保守並びに補強方法について 友永 和夫
 ダムの設計条件について 新井 義輔
 小河内ダムの建設について 佐藤 志郎
 コンクリートダムの施工設備について 藤田 博愛

以上で講習を終り修了証書授与式を挙行,会長登壇受講者代表,八尾市技師土木課長喜田加一氏一同に代つて証書を受領,会長挨拶の後,仁杉理事閉会を宣し盛況裡に講習会の幕を閉じた。最後に多数の聴講者は暑中熱心に聴講し,又講習会が年と共に盛んになつていく有様を見て,又斯界のため誠に慶賀に堪えない次第である。

写真—1 講習会場(壇上に立てるは田中豊博士)



◎見学会(昭.26.8.25)夏季講習会の附属行事として講習科目に関係深い工事現場の見学を行った。2班に分れて各々専門の参加者多数で盛況であった。

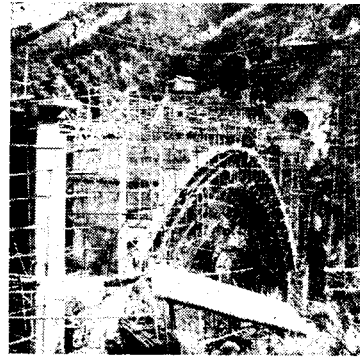
第1班 小河内ダム建設工事

この班は定員100名の予定であったが、希望者超過のため105名はバスで残りは立川から氷川まで電車で行くことになった。電車組15名は佐藤所長の御好意により氷川から事務所のバスを提供されて帰路山口貯水池を廻り立川まで第1班全員同一行動をとりうるように御計らい頂いたことは誠に感謝にたえない。

バス班は3合に分乗、都から配布された「水道の知識、小河内貯水池の架」を手にして、定刻9時新宿駅をスタートした。10時立川、10.15羽村、玉川上水及び羽村村山線の2つの取入口を5分間車上から見る、案内役の説明を熱心にきく、江戸時代この玉川上水を引いた日本上水学も大したものであると感服する。10.35青梅、これから奥多摩国立公園の景勝にかかった。多摩の溪谷を左に見て数々のカーブを「は」とは軽快に縫つてゆく。予定通り11.30氷川の建設事務所に着きダム模型により説明をきき、小憩後、最後のコース建設用コンクリート専用道路約6kmにかゝつた。12.00目的地、東京都水道局小河内貯水池建設事務所技術課工事区と国鉄新橋工事事務所水根工事区の両看板のかゝつた2階建の事務所についた。かねて準備された2階の大広間で先着の電車組と合流、昼食を摂り12.20佐藤所長の小河内ダム建設についての概略につき説明あり、藤田技術課長は現場において説明されることとして、12.30植村機械係長より碎石工場系統、コンクリート混合所系統各図面により設置運用につき20分余詳細な説明があつた。13.00から新橋工事事務所境工事区長の西角達夫氏から「小河内線建設工事概要」の資料により説明をきく、工事費当初予算52,000万円、延長約6.5km内、橋梁22ヶ所(1.030km) 隧道22ヶ所(3.280km) 蒸気運転、(但し隧道は国鉄1号型、電化可能)等。聞くからに、見るからに驚くべき難工事だ。説明終つて13.20愈々見学を始めた。先ずコンクリート試験室、約100坪一部2階建の立派な内容をもつた試験室だ。物理的に化学的に色々な角度からテスト出来るようになってい。バス4台、4班に別れ出発、水根の鉄道終端工事を見てトンネルを幾つもくぐつて貯水池現場につく。階段を下つて碎石工場に入る。大きなクラッシュャー第1次、第2次、第3次、これをつなぐベルトコンベヤ等々うまく山の傾斜を利用して造つてある。ただこの機械も10年前のものでAEコンクリートの出現は砂の篩分けの後もう一つ篩分けブラン

トを必要とするだろう。全体が電気装置で一人の技師で全部の機械がコントロールすることが出来るようになってい。次のミキシングプラントは1棟3m³の大きなのが2台、自動計量で骨材が計られミックスされる。これも全機械が1人でコントロール出来る。このコンクリートを25tのケーブルクレーンでつるして打つのである。吾々のためにクレーンを動かして頂いた。14.45現場視察を終つて4台のバスは氷川に戻り鉄道日原川橋梁(日本最大鉄筋コンクリート拱橋)工事場に行き約30分鉄製セントル架設工法を見聞する。15.50山口貯水池に向う、もと来た溪谷を青梅まで、それから左に折れて落葉樹の林、村山、山口の分水嶺を縫つて17.00山口貯水池事務所につく。公園の風景を見ながら西瓜の接待に舌鼓を打ち休憩約35分こゝで長時間終始御案内に御世話下さつた藤田氏等に別れを告げ17.35村山貯水池を横断して青梅街道を経て振り出しの新宿に18.35着解散した。

写真-2 日原川橋梁現場



第2班 四ツ木橋工事及び岡田川各橋梁

午前9時京成電鉄四ツ木駅前集合、都心より一寸交通の便がよくない処なので相当の遅参者があつた。それでも9時30分頃までには殆ど全員が集合し、直ちに葛飾側現場に赴く。間組の現場事務所で田村関東地建四ツ木橋工事事務所長に説明を伺つた後葛飾側の架設工事を見て、更に西側に行き、架設及び取付通路の築造工事を見学した。工事は半ば以上進捗して中央部若干を残すのみ。本橋の開通により葛飾及び千葉県松戸市方面は都心に直結され、その効果は極めて大きい。工事完成の一日も早からんことを祈りつゝ3台のバスに分乗、吾妻橋に向う。11時アサヒビール工場前着、直ちに工場見学を行う。土木屋とビールは直接関係はないにしろ、多少のつながりはあるようにも思われる。唾をのみながら整然と運行されている流れ作業に感嘆し、それがそのまま土木工事に適用されたなら……と淡い羨望を感じつゝ工場内を一周した後

昼食をとる。工場長のビールの話等を拜聴しながらまづ一杯。暑さと疲労に些か弛緩した身体が一気によみがえる。昼食終り工場脇隅田河岸に待機していた3艘の伝馬船に分乗、午後1時ランチに曳航されて出発。一先づ白鬚橋まで遡航し、以下生酔にはてつた頬を川風に冷しながら川を下る。各伝馬船には東京都建設局の係員が同乗されて頭上を過ぎ行く橋梁について一つ一つ丁寧な説明をされる。各橋梁とも全部形式が異なっているので橋梁の勉強には好適である。事務所で説明を伺い、正3時に行われる橋の開閉を見学する為橋台の内部にもぐり込む。巨大な橋桁が1度1秒の速さで開閉される有様は誠に壮観である。見学終り丸安理事より挨拶があり予定通り午後3時30分無事解散した。参加人員は164名であった。

写真—3 隅田川を下る一行



◎各種委員会

(1) 編集委員会(昭.26.8.20) 出席者: 米元副委員長外各委員; 協議事項: (a) 原稿審査報告及び新原稿審査委員決定; (b) 原稿依頼先及び抄訳担当者の決定, (c) 第10号登載予定論文を下記の通り決定。

畑中元弘: 突堤の自由振動について, 桜井季男: 隅肉塔接継手の比較に関する実験, 米沢博: 鉄筋コンクリート単純版の荷重分布に関する研究, 村山朔郎・柳場重正: 混合機構の研究, 村上正: 十字材系としてのラーメンの解法, 畑野正: 寒天模型による重力ダムの振動実験, 高畑政信: 計算器の応用。

(2) 法規小委員会(昭.26.8.28) 出席者: 佐藤, 落合, 宮沢(代横田), 北村(代粕谷)の各委員, 協議事項: 落合幹事の第1案, 第2案の審議に先立ち, (1) 高級な第1案は理想的であるが我国の現状に即しないから建築士と同様に1級2級の2種を考えた第2案とすべきである。(2) 分科別に分ける必要はないとの根本問題を話し, 折角前回法規委員会で決定せられた方針であるが, 再検討を乞うとの結論に達したので9月中旬に法規委員会を開催することとする。

(3) コンクリート常置委員会(昭.26.8.30) 出席者: 吉田委員長外各委員, 協議事項: (1) コンクリート関係用語案につき山田委員の原案に基き審議し, 委

員会の意見を用語委員会に申出ること, (2) 節のJIS案について(国分, 猪股委員原案)審議

(4) 灌漑及び水路委員会 第2回国内委員会

(昭.26.8.23 人事院ビルにおいて) 米元理事

① 出席者: 一般印度え出張せる代表3氏の中, 安芸, 清野両氏, 農林省, 建設省河川局(伊藤課長, 小林技官) 外務省, [資源調査会, 土木学会(米元), 農業土木学会

② 経過概要説明: 予め学会へ送付されていた資料「国際かんがい排水委員会事務局機構について」を読んで説明

③ 第1回国際かんがい排水会議出席の報告

(i) 安芸氏: 上記資料 p.9~14 の通り

(ii) 清野氏: 配布資料「第1回国際かんがい排水会議の概要」の通り

④ 国際かんがい排水委員会へ加盟について: 別紙「閣議決定事項案」を承認, 尙農林省に国内委員会移管を承認「政府加盟」についてその内容につき米元質問, 各方面の意見説明ありし後承認, 事務は外務省に於て手続を進めてくれ

る旨。

⑤ 国内委員会構成: 本日はまだ準備会の性質であつて, 近日農林省主催で具体的に事を運んで行くから協力を乞う旨挨拶があつた。

◎その他

(1) 学術関係の国際会議について JSC 会長亀山直人氏から次のような照会があつた。

最近外国の学界との連絡が盛んになり, 学術関係の国際会議に, わが国の科学者の出席を求める招請状が数多く参るようになってきたが, 1950年度からはこのような会議代表者を派遣することが相当の規模に行われるようになり, 最近会議の出席ための渡航の手続きが大体はつきりしてきた, 現在の事情は下記の通りである。

記

(1) 政府は学術関係の国際会議への代表者派遣に要する円予算を計上している。

(2) 政府が支出するのは, わが国の学界を代表するものに対してであり, それは JSC の推薦する科学者であること。

(3) 政府支出額は開催地迄の往復旅費, 会議の期間及びその前後2日ずつの滞在費その他の雑費。

(4) JSC で世話するものは, JSC 宛に代表者派遣方招請状のあるものが原則であるが, まだ周知せられていないので文部省その他の省, 大学, 学会, 個人等

に来る場合もあるがこれを JSC に回付されれば内容によつては直接の招請状と同様に取扱う。

(5) JSC にはこれに対して内規(別紙省略)がある。

(6) 内規によつて JSC は調書を提出することになつてゐるから会議出席希望を申出らるゝ場合の性格、内容、重要性、わが国との従來の關係等を具体的に記載した文書を添付のこと。

(7) 所要経費を国費によらない場合でも JSC に申出であれば審議の手続きをする。

(8) なお、政府は、學術研究のための留学、視察、調査等のための外国出張についても、それに要する経費支弁のための予算を計上しており、これは前記経費とは別件になつて關係各者で世話をする。

支部だより

(1) 中部支部:

(1) 第5回幹事会(昭.26.8.7)協議事項:(a)7月8日の行事報告,(b)9月公開講演会の企画,(c)10月支部大会の企画,(d)第1回応用力学連合講演会推薦者なし,(e)名簿の整理,(f)特別員推薦2件のみ今一層努力すること,(g)寄附金の募集(15万円程度)成案まとまらず,(h)支部ニュース

(2) 第4回見学会(昭.26.8.12)参加者:35名,志摩国立公園,宇治山田駅前10時30分集合,三重県のお世話によるバスに乗り太平洋を眼下に或いは志摩の丘陵地帯と非常にバライテイのある情景を眺めつゝ一路志摩半島を南下する。ただ惜むらくはこの間の道路がほんの一部を除いては観光地にふさわしくない状態のものであることは誠に遺憾であつた。12時25分波切(大王崎)に到着,大王崎燈台を見学後太平洋を

眼下に見下す絶景の地で奥田幹事長から挨拶があり,満座なごやかな雰囲気の中に昼食。14時波切発再びバスで賢島に向う。14時25分志摩観光ホテル(賢島)に到着,英虞灣の景色を觀賞しながら同ホテルホールで休憩。15時ホテル発北上16時10分鳥羽真珠島に到着,真珠の養殖及び製品のになつて販売されるまでの過程を元三重県土木部長,現在真珠島観光KK社の上井兼吉氏の説明をきく。船の都合で,この間30分位で時間が少なくて残念であつたが一応見学する事ができた。17時10分鳥羽真珠島発,二見浦夫婦岩を見学し,宇治山田駅に17時50分到着,7時間半にわたる見学旅行を終つた。

(2) 西部支部:夏季講習会(昭.26.8.18~19)佐賀県唐津市において開催,参加者130名,終つて唐津港見学。

- | | |
|-----------------------------|-----------|
| 第1日:開会の辞 | 支部長 稲垣茂樹 |
| 吊橋について | 平井 敦 |
| アーチダムについて | 熊川 信之 |
| アメリカ仕様書による飛行場コンクリート舗装工事について | 大野 幸男 |
| 三池炭礦における人工島について | 森田 定市 |
| 鋼弦コンクリートについて | 水野 高明 |
| 変つた形式の岸壁構造について | 田賀 秀和 |
| 映 画 | 佐賀県作製 |
| 第2日:工事経営法について | 渡辺 寛治 |
| 米国の道路技術 | 片平 信貴 |
| トランシット並びにワイレベルの | 又線の高整度整正法 |
| 最近の鉄道施設 | 新郷 高一 |
| 唐津余談 | 岡田 秀穂 |
| 閉会の辞 | 吉村 茂三郎 |
| | 三浦 文次郎 |

昭和26年8月分入退会報告(26.8.1~26.8.31現在)

| | |
|--------------------------|---|
| 1. 入 会 | 117名(特別員16,正員19,准員78,学生員4) |
| 2. 復 活 | 20名(正員12,准員8) |
| 3. 転 格 | 99名(准員より正員へ99) |
| 4. 退 会 | 110名(正員21,准員89) |
| 5. 除 名 | 577名(特別員10,正員80,准員467,学生員20) |
| 6. 昭和24年度会員名簿に重複記載のための削除 | 准員2名 |
| 記載洩れのため追加 | 特別員1名,准員3名,記載誤りの為特別員3級の部より2級の部に移すもの 特別員1名 |

会 員 現 在 数 (昭.26.8.31)

| | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 名 譽 員 | 賛 助 員 | 特 別 員 | 正 員 | 准 員 | 学 生 員 | 計 |
| 16 | 15 | 177 | 4 184 | 4 998 | 1 006 | 1 0396 |

昭和26年9月25日印刷 土木学会誌 定価 80円

昭和26年9月30日発行 第36巻第9号

編集兼発行者 東京都千代田区大手町2丁目4番地 中 川 一 美
 印刷者 東京都港区溜池町5番地 大 沼 正 吉
 印刷所 東京都港区溜池町5番地 株式会社 技 報 堂

東京都中央局区内千代田区大手町2丁目4番地 電話和田倉(20)3945番

発行所 社 団法人 土 木 学 会 振替東京16,828番